

内地留学報告会より



1月23日(火)に内地留学報告会を開催しました。「子供と教師のためのチーム支援」と題して、入善町立ひばり野小学校 草野 桂子先生に実践的なチーム支援の在り方を事例をもとに分かりやすく、報告をしていただきました。

チーム支援には、「生徒・児童理解において新たな視点を得られる」、「子供にとって最適の支援を生み出すことができる」、「教師の持ち味を生かした支援ができる」、「共働的な雰囲気が生まれる」等のメリットがあることや問題の早期発見と教師の観察力育成が大切になってくることが分かりました。また、チームによる支援の課程や支援のために活用できる、「困り感の状態のチェックシート」、「リソース(援助資源)チェックシート」も紹介していただきました。

様々な問題に対応するためのチーム支援について、教育センターに所蔵してある草野先生の内地留学研修報告の冊子を読んでいただき、是非とも各学校での実践に役立てていただきたいと思います。



平成30年度の主な研修会予定より



◇ 魚津地区教育センター協議会の研修会予定 ◇

研修会名	生徒指導に関する研修会	外国語活動に関する研修会	道徳に関する研修会
期 日	7月26日(木) 午後	8月1日(水) 午後	8月27日(月) 午後
会 場	うるおい館(入善町)	うるおい館(入善町)	うるおい館(入善町)
講 師	兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 先生	東京学芸大学 教授 粕谷 恭子 先生	京都産業大学 教授 柴原 弘志 先生

◇ 入善町教育研修会の予定 ◇

研修会名	とやま型学力向上プログラム研修会
期 日	6月29日(金) 午後
会 場	うるおい館 イベントホール
講 師	文部科学省 初等中等教育局 視学官 澤井 陽 介 先生

☆ 新規購入DVDの紹介 ☆

- ◆生きる力を育む性教育シリーズ 小学校保健教材 「育ちゆく体 私の誕生 二次性徴 命の尊さ」(14分)
- ◆生きる力を育む性教育シリーズ 小学校保健教材 「男女仲良く 事例で学ぶ男女の人間関係」(13分)

☆ 新 着 図 書 の 紹 介 ☆

- ◆「英語指導 技術ガイドQ&A」 授業の悩みにこたえる26のレシピ 著者：粕谷 恭子 他
- ◆「今日から始める 小学校英語活動 授業アイデア集」 編著者：粕谷 恭子
- ◆「スマホやネットが苦手でも指導に迷わない!」 スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談 著者：竹内 和雄
- ◆「アクティブ・ラーニングを位置付けた 中学校 特別の教科道徳の授業プラン」 編著者：柴原 弘志
- ◆「シリーズ 明日の教室 学級経営・基礎の基礎1 教師の一日・一年」 編集：明日の教室研究会
- ◆「シリーズ 明日の教室 学級経営・基礎の基礎3 授業をつくる」 編集：明日の教室研究会



編 集 後 記

平昌冬季オリンピックは、女性の活躍が大変目立ちました。女性の活躍とえば、ちょうど100年前の夏に富山県内から全国に広がった米騒動でも、主役は漁村の女性でした。今年1月の北日本新聞の記事によると、「米そうどう」の語句が、2002年度版の小学6年生社会科の教科書(東京書籍)から消えて「民衆運動」と表記され、米騒動に関する記述内容も薄くなったそうです。この教科書は、1998年に告示された学習指導要領に沿って編集され、ゆとり教育の影響を受けています。その後、授業時数や学習内容は増加しても、米騒動の表記は復活しませんでした。来年度から新学習指導要領への移行期間となります。指導要領が改訂しても、今までどおり子供も先生も元気に活躍できる学校であってほしいと思います。

発行：入善町教育センター
〒939-0626

富山県下新川郡入善町入膳 5232-5
うるおい館3階

TEL:0765-72-0009 FAX:0765-74-2792

Eメール: nyuzen-ec@tym.ed.jp

ホームページ: <http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp>



積極的な「分からない」

入善町立入善小学校

校長 村上 正 幸

私は、「分からない」やそれに類似した言葉を頻繁に使う方である。そのようになった経緯に関わる出来事について紹介したい。

ある研究会で、そこに居合わせた参加者の方との雑談の中でのことである。私が「よく分からないのですが・・・」と話し始めた時、その方が「あなたのような立場の方が、分からない・・・と言ってよいのですか」と私の話を遮り、真意を伝えることができず重苦しい心境になったことがあった。

また、若かりし頃、算数科の研究授業で目新しい教材を提示し、子供たちの思考を混乱させてしまったことがあった。その授業を通して、児童の実態に応じた教材の選定と提示の仕方等、自分が分からないことを中心に研究発表会のための提案資料を作成したところ、会員から「分かったことやできたことに視点を当てて発表してはどうか・・・」と提案され、事実を偽って資料を作成するよう促されているのではと反感をもったこともあった。

一方、私の尊敬する上司から「〇〇のことがよく分からないから調べて教えてくれないか」と言われ、その気になって調べたり考えたりしながら報告に行くと、次の「分からない」ことについて調べてと、繰り返し依頼されることが続いた。そのうちに、自分の中に自信のようなものが芽生え始め、その上司が何のために「分からない」と言っていたのか気付くことができた。それは、私を育てるための意図的な「分からない」であった。

校内研修の研究主題解明について教師と話をしている時、「私も分からない、分からないから研修するのだろう」と話したことがあった。そのことで、担当者から研修の進め方で悩んでいたが、随分気持ちが楽になったと聞いたことがあった。

決して器用とは言えず、教育技術はもちろん子供の扱いも難点だらけの教師としての自分を客観的に見つめて、教壇に立つ資格があるのかと常に思い続けた。ただ、自分を偽るな、自分を飾るな、子供たちに正直であれと言いつけてきた。

参加者の方の言葉や研究授業の出来事は、「分からない」と言うことはいけないこと、恥ずべきことと捉えている。分からないことを隠そうとするため、自分を偽ったり、飾ったり、子供たちや同僚をだましたりすることにつながってしまうのではないか。逆に、上司の依頼や研究主題の出来事は、部下を育てるため、同僚の意欲を喚起するための積極的な「分からない」なのではないだろうか。

人は、誰しも自分をよく見せたい、優れていると見てもらいたいと願うのは当たり前である。しかし、自分を飾ったり偽ったりすると、必ず無理がきて、飾ったことをより飾らないといけない、偽ったことにより偽りを重ねないといけなくなる。教師の場合は、その相手が子供たちであるということを肝に銘じないといけない。

今日の自分があるのは、私を支えてくださった多くの方々のご指導やご支援があったからと心より感謝すると同時に、予測できない未知なる世界を生き抜く、心も体もたくましい子供たちを育てる職責を担っている教師には、積極的な「分からない」を言える教育者であってほしいと願う。